

## 週報

# 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成28年												平成29年															
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ~5日	11月 ~12日	11月 ~19日	11月 ~26日	12月 ~3日	12月 ~10日	12月 ~17日	12月 ~24日	12月 ~31日
カンピロバクター	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	18	28	34	29	25	20	17	12 (13)	9
病原性大腸菌	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	18	21	18	16	26	19	23	20 (22)	18
腸管出血性大腸菌	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	4	8	4	0	1	0	2	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	4	1	4	0	5	3	2	1	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	3	4	5	3	2	3	3	2	4
腸炎ヒブリオ	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	2	0	1	0	1	0	0	0	0
ロタウイルス	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	2	0
ノロウイルス	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	0	0	2	5	5	3	5	6	2

\* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 広島県感染症発生動向週報

平成29年第52週(12月25日~12月31日)

### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	11	結核	11	2		2		6		1	
三類	0	報告なし	0								
四類	3	つつが虫病	1		1						
		日本紅斑熱	1							1	
		レジオネラ症	1								1
五類全数	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1					
		急性脳炎	1				1				
		後天性免疫不全症候群	2					2			
		梅毒	1					1			

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第52週 12/25～12/31)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. インフルエンザ

定点当たり17.1人と、前週と比べてやや減少しましたが、例年、学校が始まると急激に患者が増加し、1～2月頃に流行のピークとなるため、注意が必要です。

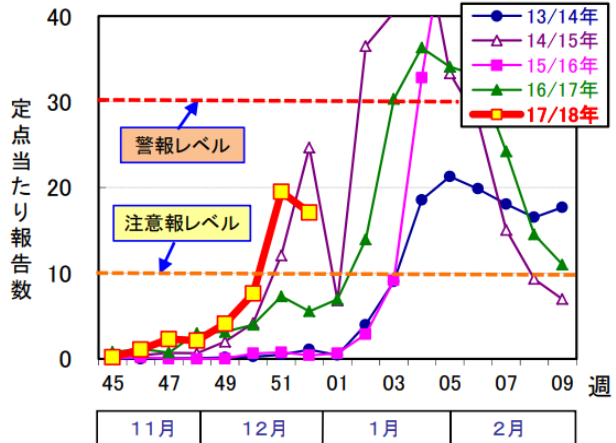
なお、第52週の市内の基幹病院2か所による迅速診断結果では、A型陽性が450人、B型陽性が136人報告されています。

予防や感染拡大防止のため、手洗いや咳エチケットを励行し、38℃以上の発熱、咳、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感などの症状が見られた場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

2. 梅毒

1件の報告があり、今年の累計は62件となりました。2016年の27件を大きく上回り、過去最高となっています。今後も梅毒の発生動向に注意が必要です。

インフルエンザの流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号		
小児科	インフルエンザ	632	17.08	6.77	急増	小児科	流行性耳下腺炎	4	0.17	0.54	増	流行性角結膜炎	5	0.63	0.55
小児科	咽頭結膜熱	10	0.42	0.36	増	眼科	RSウイルス感染症	11	0.46	0.89	増	細菌性髄膜炎	-	-	-
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	1.83	1.74	急増		急性出血性結膜炎	1	0.13	-	無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	245	10.21	12.52	増	基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.23	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	水痘	14	0.58	1.31	増		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.03	
	手足口病	9	0.38	0.48	増										
	伝染性紅斑	1	0.04	0.32	増										
	突発性発しん	7	0.29	0.38	増										
	百日咳	-	-	0.02	増										
ヘルパンギーナ	1	0.04	0.03	増											

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね 1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね 1:1.5～2の増減

微増減 ↖ ↕ 前週と比較しておおむね 1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇔ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	6	141	男性(20歳代)・1人、女性(50歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・3人
5	急性脳炎	1	4	女性(10歳未満)
5	後天性免疫不全症候群	2	11	男性(30歳代)・感染者、男性(40歳代)・エイズ
5	梅毒	1	62	男性(20歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱(39.0) 髄膜炎 項部硬直 頭痛	7	男	2017/11/06	髄液	エコーウイルス6型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入のみ掲載